

足羽川ダム建設事業の点検

近畿地方整備局



【点検の対象】

- ◆「ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目」に基づき、足羽川ダム建設事業の点検を実施。

「基本計画等の作成又は変更から長期間が経過しているダム事業については、必要に応じ総事業費、堆砂計画、工期や過去の洪水実績など計画の前提となっているデータ等について詳細に点検を行う。」

「ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目」第4 再評価の視点1 (1)①より

【点検の趣旨】

- ◆この検討は、今回の検証のプロセスに位置づけられている「検証対象ダム事業等の点検」の一環として行っているものであり、現在保有している技術情報等の範囲内で、今後の事業の方向性に関する判断とは一切関わりなく、現在の事業計画を点検するもの。
- ◆また、予断を持たずに検証を進める観点から、ダム事業の点検及び他の治水対策(代替案)のいずれの検討に当たっても、さらなるコスト縮減や工期短縮などの期待的要素は含まないこととしている。
- ◆なお、検証の結論に沿っていずれの対策を実施する場合においても、実際の施工に当たってはさらなるコスト縮減や工期短縮に対して最大限の努力をすることとしている。

堆砂計画の点検



【堆砂計画の点検の考え方】

- ◆平成19年2月の河川整備計画時に計画された計画堆砂量を基に、算出条件に変更がないか点検を実施。
- ◆計画堆砂量算定において、計画の前提となるデータについて、新たなデータを確認することによる計画堆砂量の妥当性について点検する。

◆足羽川ダムの計画堆砂量は、流水型ダムであるためダム洪水調節地内の河道にて、一次元河床変動計算による100年間の堆砂シミュレーションを行い、洪水時に一時的に堆積する土砂量の最大値(50万m³)で設定した。

○計画堆砂量を決定した際の与条件について、以下の項目を確認した。

1. 計画比流入土砂量

- (1) 事業計画作成以降、足羽川流域において流域内の土砂の流出形態を変えるような要因(大規模開発、大規模崩壊地の発生等)は発生していない。
- (2) 近年完成した永平寺ダム、榊谷ダム、浄土寺川ダムこれら3ダムは右表のとおり完成してから間もないため堆砂傾向を把握するにもデータ数が少ないこと、流域面積が比較的小規模であることから、新たな完成ダムの反映は必要ないものであることを確認した。
- (3) 計画比堆砂量の推定に用いた近傍類似4ダムの直近までの堆砂実績データを確認したところ、現計画時に根拠としたデータと比べ堆砂の増加傾向が同程度であった。

ダム名	ダム事業者	流域面積 km ²	総貯水容量 千m ³	有効貯水量 千m ³	計画堆砂量 千m ³	竣工年	経過年数
永平寺ダム	福井県	3.1	770	630	140	H13	9年(H13~H22)
榊谷ダム	福井県	30.46	25,000	23,100	1,900	H17	5年(H17~H22)
浄土寺川ダム	福井県	7.7	2,160	1,880	280	H20	2年(H20~H22)
足羽川ダム	国	105.2	28,700	28,200	500	-	-

【堆砂計画(計画比流入土砂量)の検討結果】

◆以上より、現計画の計画比流入土砂量は妥当と判断する。

2. 堆砂計算

- (1) 流入土砂の土砂粒度構成を与えるための近傍類似ダムの貯水池内堆砂粒度データについて、存在する近年の堆砂粒度のデータを調べたところ、現計画の根拠としたデータの粒度分布の範囲に収まり、大きく逸脱していないことから堆砂する土砂の傾向に大きな変化は想定されないため現計画の粒度設定は妥当と判断する。
- (2) 事業計画作成以降、堆砂計算の条件変更が必要となるような大規模な洪水は発生していないため、一次元河床変動計算に用いる洪水データは現計画時のもので問題ない。

【堆砂計画(堆砂計算)の検討結果】

◆現計画の計画堆砂量の変更が必要となるような新たなデータは無いことから、足羽川ダムの計画堆砂量は、現計画(50万m³)で妥当と判断する。